

ファミリービジネスにおける親族外承継についての考察

氏 名 米本 真

指導教員 高橋秀直 准教授

要旨

ファミリービジネスの多くが、親族への承継が進まず、後継者問題を抱えているとの問題意識に対し、親族外承継、特に従業員承継について検討する。

その中で、従業員は、ファミリービジネスが持つ特性を引き継ぎ、相対的に良好な業績パフォーマンスを実現する承継者になる可能性が高いことを認識した。これは、従業員承継者の持つ個々の特性や能力によるだけではなく、「経営と所有の分離」という、株式会社の基本的な特質の中で、従業員承継者と企業のオーナーシップを有する所有者との関係性に起因するのではないかとの仮説を得た。すなわち、従業員承継者は、「経営」を「所有」から委ねられているとの関係性、いわゆる「信認関係 (fiduciary relationship)」が形成されることで、そこから求められる義務（忠実義務・注意義務）を意識的に、または無意識的に果たそうとするからではないかということである。

また、複雑な利害関係の発生しやすいファミリービジネスにおいて、「経営と所有の分離」を明確化することで、「信認関係」をより強く意識できるよう、「ファミリーオフィス」の活用とそれのもつプライベートインベストメント機能（資産運用機能）」の強化、拡張を提案した。